古民家だより

No. 55
令和５年（2023 年）５月２４日（水）
越谷市教育委員会　生涯学習課

「来てよ！　愛しい五月さん」という歌い出しの楽曲『春への憧れ』は、厳しい冬がようやく終わって待ちに待った春の到来を喜ぶ西欧の人々の気持ちを表しています。５月は日本では春から夏に移り変わる季節です。今号ではこの時期に行われる田植えについて、かつての様子をご紹介します。

玉苗植える五月

田植えの準備は、市域でも早い所では２月から始まっています。冬の間に堅くなってしまった土を掘り起こす「田起こし」を何度か行い、水を引き込むまでに細かい土にしておかなければなりません。

葛西用水に水が通され、溜井が満水になるのは４月中頃で、それから田んぼに引き込まれます。その後も水が土になじむように耕され、ようやく田植えとなります。

現在はカートリッジ式の苗床で育てたものを田植え機にセットして植えますが、かつて手作業で行っていた時は一家総出で行う厳しい労働でした。

４月上旬の溜井
（葛西用水に通水される前の様子）

５月２日の溜井
（堰が閉められて通水され、満水の状態になりました。）

（写真はいずれも越谷市教育委員会所蔵）

田起こしと水を引き入れる様子を撮った写真が市に所蔵されています。昭和 30 年代と思われます。家畜にひかせている農具は「犂（すき）」で、先端が金属製です。人の脚力で用水を田んぼに流し入れる農具は「水車（みずぐるま）」（踏み車）です。いずれも封建時代からあるものです。これらの農具は現物が「大間野町旧中村家住宅」に保存されています。

田植え歌

昭和 45 年（1970 年）３月に発行された『越谷市民俗資料』には、増森地区と向畑地区の田植え歌が掲載されています。２番までは双方の歌が似ています。

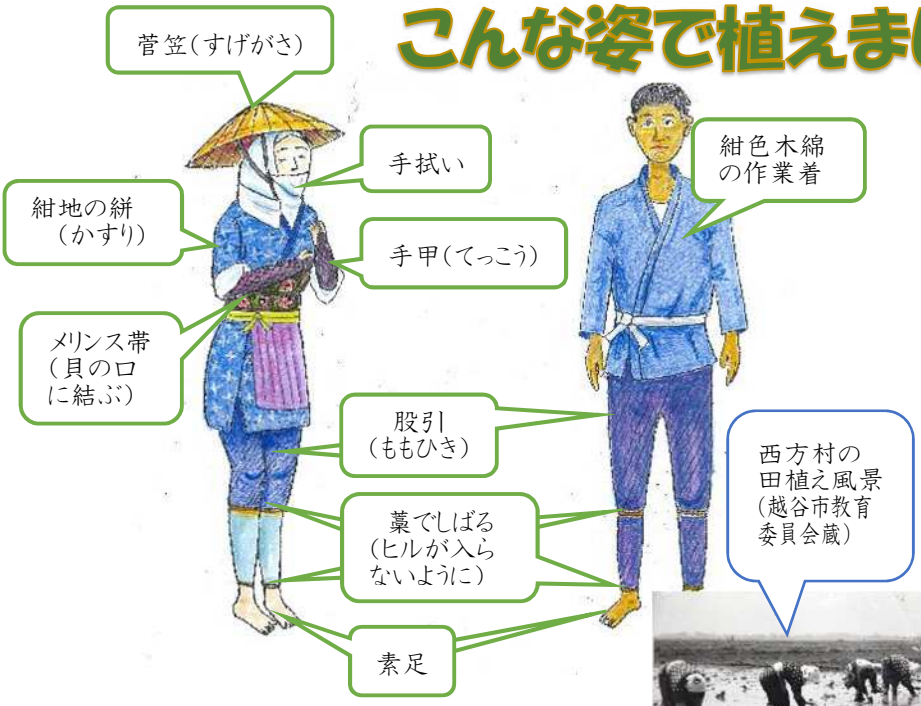
１．ヤーレ　十七～ヨイ　今年初めてヨ～　田を植えたよ（ア、ウエテシャレ、ウエテシャレ）
２．ヤーレ　しかも　ナーヨイ　この田はよく出来たよ　（ア、ウエテシャレ、ウエテシャレ）

（　）内はお囃子（はやし）の言葉で、「植えて下がれ」の意味だそうです。手で植える場合、かがんで一株植えるとそのまま下がって次の苗を植えました。植える位置は大体決まっています。目印を付けたロープを張るか、予め“田転がし”という道具で田んぼにマス目を描いておきました。

苦しい作業もこの歌で少しでも気持ちを和らげたのでしょう。中世には「田楽（でんがく）」という歌と踊りの一座を呼んで田植えをした地域もあったので、各地に残る田植え歌はその名残かもしれません。

まだ寒さが残るうちから苗代で育てられた稲は、「玉苗（たまなえ）」という言葉があるように大切な尊い苗という気持ちが込められていました。

こんな姿で植えました



前掲の『越谷市　民俗資料』には、田植え衣装も紹介されています。発行当時は高度経済成長期の終盤でしたが、市域の古老の方々に取材してまとめられた資料なので、内容はそれ以前の、機械がまだ浸透していなかった頃の状況と思われます。本書の図は白黒の線描きなので、そこに彩色したもので掲載します。

「早乙女（さおとめ）」という言葉がありますが、「サ」は接頭語で神稲の意、田植えする女　と『広辞苑』（岩波書店）にあります。抒情歌の『夏は来（き）ぬ』には「早乙女（さおとめ）が裳裾濡（もすそぬ）らして玉苗植うる　夏は来（き）ぬ」と歌われていますね。

サナブリ

6 月、厳しい田植え作業が終わった後は、神様に感謝し皆でお祝いと互いの慰労を含めた宴が開かれました。これを“サナブリ”と言いました。「早苗響」と書くそうです。一家の家族だけでなく、その家の田植えを手伝ってくれた人々を招いて行ったそうです。サナブリの様子を前掲の『越谷市民俗資料』からまとめてご紹介します。

★早朝から餅つきをして御馳走を作る。　★まだ田植え中の人を励ますために田植え歌を歌う。
★12 束の苗をきれいに洗って荒神様（竈の神様）にお供えする。
★手伝ってくれた人には御馳走を振舞い、引き出物（饅頭、手拭いなど）を持たせる。

田植えや稲刈りは家族だけでは出来ない作業だったので、予め計画を立て、近所の家々が互いに助け合って仕事を成し遂げました。こういう仕組みを“結（ゆい）”というところもあります。

レイクタウン防災フェス 2023

『阿鼻叫喚からの再起』パネル展

◆期間　令和5年5月27日(土)～28日(日)‥‥この2日間は入館無料です。
◆場所　旧東方村中村家住宅(レイクタウン 9-51)

今年は大正 12 年（1923 年）の**関東大震災からちょうど 100 年**になります。当時市域での即死者は 19 名もいました。この大震災の様子を次の内容でご紹介する展示を行います。

◆大震大火地図(東京市)　◆戒厳令・勅令　◆新聞記者の奔走
◆市域の状況(被害、救助、避難、恐怖・不安)　◆復興への取り組み

当時の緊急勅令(『越谷市近現代資料目録』所収)